

# 室町時代の村落

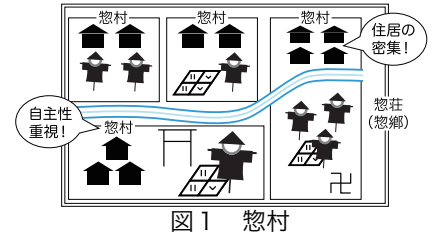
惣村が発生した背景には不明確な点が多い。鎌倉時代後期からの混乱は、近畿地方やその周辺部に荘園領主の支配が及ばない「空白の部分」を生じさせ、この特定条件の下で惣村が発生したとされている。また、京の近くは経済発展・農業生産力向上の勢いが強く、農民の自立を促したとも言われている。

## ○惣村の形成と土一揆の頻発

### ● 自立的な村の登場 | 鎌倉時代後期～

鎌倉時代後期から、近畿地方やその周辺部の荘園・公領に、農民たちの自立的・自治的な村<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ が形成された。

⇒(1) の村民は有力農民の名主や小農民から構成され、惣百姓と呼ばれた。



### ● 惣村の自立的で自治的な要素

惣村の指導者…<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ ・沙汰人<sup>さたにん</sup>など

惣百姓の会議…<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_

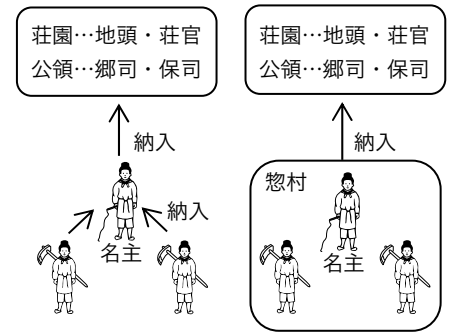
惣村の規約…<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_

惣村の治安…<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ (惣百姓自身の警察権行使)

惣村の共同財産…<sup>いりあいち</sup>入会地 (山・森などの共同利用地)

年貢の納入方法…<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ (惣村がひとまとめに請け負うこと)

惣村の祭祀集団…<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_



◇一部の惣百姓は守護と主従関係を結び、**地侍**に成長

図2 従来の納税(左) / 惣村の地下請(右)

### ● 一揆の頻発と代表例

惣百姓は、時に荘官の免職や年貢の減免を求める団結状態<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ を結んだ。

→(8) を結んだ後、荘園領主のもとに大勢で押しかける<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_、

耕作を放棄して全員で他領へ逃げ込む<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ をおこなった。

→惣村同士が荘園などの枠を超えて蜂起する<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ もおこなった。

⇒免税などの恩恵を施す政治「徳政」を求める(11)は、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称された。

◇代始めの徳政…支配者が替わると、人間・金銭関係が一新されるという社会通念あり

◇<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ …<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ (債務額の一部)を幕府に納めることで発布される徳政令

①1428年、<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_

…<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ 国の運送業者<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ が「徳政」を要求して蜂起し、

次いで京都近郊の者も蜂起して土倉・酒屋を襲った土一揆

…幕府による徳政令はなく、民衆の実力で徳政を強行(私徳政)

…6代将軍<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ の就任時に起きた「代始めの徳政」

②1429年、播磨の土一揆

…守護赤松満祐<sup>みつすけ</sup>の家臣の国外退去を要求した土一揆

③1441年、<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_

…<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ を機に、「徳政」を要求して京都で起こった土一揆

…7代将軍足利義勝<sup>よしかつ</sup>の就任時に起きた「代始めの徳政」



やぎゅう 柳生の徳政碑文(右上)

1428年、正長の徳政一揆で私徳政を勝ち取ったことが記されている。

現在の奈良市柳生町に存在する。